

納め太刀ウオーク 2018

「山開き」も済み、白い行衣姿も凜々しい講中の善男善女で賑わう大山で、江戸時代からの参詣スタイルを現代に再現した『納め立ちウオーク』。

今年から観光協会で主催を引き受け、国民の祝日「山の日」の記念イベントとして開催しました。

「納め太刀」とは、源頼朝が挙兵の際、大山に太刀を奉納し武運長久を祈願した故事に由来し、江戸時代に庶民が参詣する際に木太刀を奉納したことから始まった、大山だけに伝わる伝統行事です。



浮世絵に描かれた水垢離場「良弁滝」前をスタート。

参加者の願いを記した割符を付けた木太刀を担ぎ、江戸時代に忠実にとふ坂(旧参道)に入り、宿坊の前ではその来歴やたたずまいを開設して進みます。



関東大震災後に、土地を出し合い新たに開いたコマ参道。途中の老舗では伽羅蒔について、古くは山内で修行する修験者達の保存食であったとその由来を解説。

道中スタッフが羽織る行衣は、風通しが悪くサウナスーツのようです。



ケーブルカーを復活させた時は、この大山川の中に線路を敷いて、車体を引っ張り上げたトレビアを聞きつつ酷暑の女坂へ。

勿論ケーブルカーは江戸時代には無いので乗りません。



昭和の初めに、青年団が京都の神護寺から取り寄せた苗が育ち、今では関東を代表する紅葉の名所になった「大山寺」到着。

野生の子鹿も一行をお出迎え。



下社直下の急坂を木太刀を担ぎ喘ぎあえぎ登ると、掌に乗せたとうふをすすりながら登ったという江戸時代の逸話も、あながち作り話と思えないのが不思議です。



本日の参加者28名全員無事阿夫利神社下社に到着し、木太刀を奉納し、正式参拝を済ませました。

その後、軽妙洒脱な解説でお馴染みの権禰宜に案内を願い、現存する7mを超える最大の木太刀などを見学し、行衣を羽織って記念撮影を行い解散しました。

追記: 奉納された割符は、10月2日(火)・3日(水)に開催される火祭薪能の際に焚き上げられます。

また観光協会では、ガイド付きツアーを催行予定です。乞うご期待！